イタリア文化論 II

科目ナンバリング　EUS-106
選択　　2単位

横田　太郎

1. 授業の概要（ねらい）

イタリアといえば、優れた美術や音楽、また、デザインや料理、あるいは、サッカーなどが思い浮かぶことでしょう。しかし、イタリア、とくに1400年代のフィレンツェは、学問とはなにかという問題について大いに議論がなされた土地でもあります。当時の学問とはすなわち読書です。そこで、この授業では「読書とはなにか」という疑問を、人文主義者の言葉を通して考えていきます。
後期は、レオナルド・ブルーニの思想に代表される市民的人文主義に対する反応の一つとして、レオン・バッティスタ・アルベルティの学問観に焦点を当て、知の在り方として、読書がいかに不完全であるとみなされているのか、確認していきます。さらに、知識人たるもの、学術言語であったラテン語とイタリア俗語とのどちらで執筆すべきかという問題にも着目します。

2. 授業の到達目標

我々にとってなじみのうすい人文主義者の思想に触れて、イタリア文化についての理解を深める。
人文主義者の思想に、我々のそれとは異なる部分と同時に、共通する部分もあることを認識する。

3. 成績評価の方法および基準

出席、毎回授業後に提出してもらうリアクションペーパー（出席確認を兼ねています）、授業への参加態度、期末試験（受講生の数によってはレポート）により、総合的に評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書
適宜プリントを配布します。

5. 準備学修の内容

基本的に予習の必要はありませんが、事前に配布したプリントに目を通してきてもらう場合もあります。

6. その他履修上の注意事項

授業では、人文主義者によるテクスト（和訳）を一緒に読んでいきます。新たに触れる思想に対する自分なりの意見を、毎回の授業後に提出してもらうリアクションペーパー（出席確認を兼ねています）を通して積極的に表現してもらいます。また、期末試験（あるいはレポート）も授業で扱った内容を踏まえて出題されますので、そのためにも授業には必ず出席してください。
なお、以下の授業計画はあくまでも計画です。授業の進み具合、また、受講生の興味に応じて、変更する可能性があります。

7. 授業内容

【第1回】　イントロダクション
【第2回】　1400年代前半におけるフィレンツェ学問界の動向
【第3回】　同上
【第4回】　同上
【第5回】　アルベルティ：先輩文人への知的挑戦
【第6回】　同上
【第7回】　アルベルティ：『文芸の利益と不利益』
【第8回】　同上
【第9回】　アルベルティ：読書と経験
【第10回】　同上
【第11回】　ラテン語とイタリア語
【第12回】　同上
【第13回】　同上
【第14回】　同上
【第15回】　まとめ